



地域とともに築いた歴史を引き継ぎ、新たな伝統を刻む

10月29日（金）県立甲佐高等学校で、歴代校長や同窓会、生徒、関係者が出席し、創立100周年記念式典が開催されました。

大正9年4月に開校した上益城郡立実科高等女学校（大正12年に県立甲佐高等女学校に改称）を前身とする同校（堀川丞美校長）は昨年、創立100周年を迎えました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた式典は1年延期に。101周年目となった今年、1年越しの記念式典と記念講演会が執り行われました。

■地域の熱望が産んだ実践を基本とする教育

大正8年6月、女子に対する中等教育を実現したいという地域の熱望に応えるために、町立御船女子実業補習学校を昇格して町立御船実科高等女学校が設置されました。翌年に上益城郡立実科高等女学校となったこの学校が甲佐高校の原点です。

大正12年に県立甲佐高等女学校と改称し、現在の地に移転。昭和23年学制改革により男女共学の県立甲佐高等学校となり。その後の学科改編などを経て、普通科、普通科福祉教養コース、ビジネス情報科からなる現在の体制となりました。

同校は創設以来、「一、学習に努め清操を涵養する」

「二、礼讓を尚び道義を昂揚する」「三、勤勞を致し平和を愛好する」「四、自律を旨とし秩序を維持する」「五、風紀を正し体育を振興する」の五綱領のもと、実践を基本とした教育を実施しています。

■地域と連携した学びを

本年度、県教育委員会「スーパードグローカルハイスクール事業」の研究指定を受けている同校では、地域社会の活性化や発展に貢献する人材育成に取り組んでいます。地域と連携した学習や体験活動を行っており、町内企業と協力して商品開発した「ニラみそあられ」「ニラえびあられ」は、本町特産のニラを使った町の新たな特産品となっています。





▲式典であいさつする堀川校長

■高校魅力化への取り組み で生徒の夢実現を

創立101年目を迎えた本校で学んだ卒業生は1万5千人を超え、現在、各方面で活躍しています。一方で、近年は生徒数の減少が続いており、現在の全校生徒数は84人。3つある学科はいずれも定員割れが続いています。

町では、甲佐高校の魅力化事業の一環として平成29年に公営塾「あゆみ学舎」を同校内に開設。地域おこし協力隊による甲佐高生の学習支援や個別サポートを通して、生徒たちの自己実現を手助けしています。

堀川校長は式典のあいさつで「あゆみ学舎の実践は県内でも例のないもの。放課後の学習活動などで生徒一人一人に応じた丁寧な指導・支援が

行われています。また、本校のキャリア教育でも、あゆみ学舎の支援によって生徒と専門家とのリモート対話を実現するなど、生徒の夢実現につながっています」とその効果を報告。生徒たちに向けて「百年の歴史を地域とともに築いてきたように、私たちも甲佐高校で学ぶことを誇りにし、夢実現のために自ら学ぶ姿勢と行動力を身に付けていきましょう」と呼び掛けました。

生徒代表の吉坂和夏さんは「県内で初めて普通科の学校に商業科が併設された甲佐高校は現在、それぞれの学科の特色を活かした学びに取り組んでいます。本校で学べることへの感謝を忘れず、さらなる発展に力を尽くしていきます」と誓いの言葉を述べました。



▲誓いの言葉を述べる吉坂さん

■入学者を増やして地域の 活性化につなげる

式典後、同校が本町や県と共同で作成したPR動画の上映が行われました。

学校の雰囲気を感じてもらうことで入学者を増やし、地域の持続的な活性化につなげることが目的。地域と連携した学びに取り組む同校では、町内の幅広い業種の協力を得て、生徒のインターンシップを実施。そういった地域とのつながりを感じられる学校生活の様子を1分30秒の動画に



▲同校が本町や県と連携して作成したPR動画



▲甲佐高校のPR動画はこちらからご覧いただけます

まとめました。

■創立100周年記念講演 で瀬古利彦さんが来校

式典に併せて、オリンピック2大会に陸上男子マラソン日本代表として出場した瀬古利彦さんの記念講演会が開催されました。

講演は同校が主催し、熊本地震復興支援講演会として町が支援。式典の参加者だけでなく、地域住民向けに町生涯

学習センターでのリモート視聴も行いました。

瀬古さんは、「心で走る」と題して、自身の競技人生を振り返りながら継続することの大切さなどを講演。「毎日の練習も情性で続けるのではなく、いつも新鮮な気持ちで取り組むことが重要。若い時こそ、目に見えない泥臭い練習をしつかりやること。失敗は考えずに今できることをやる」と訴えました。



▲記念講演で甲佐高生らに語り掛ける瀬古さん